

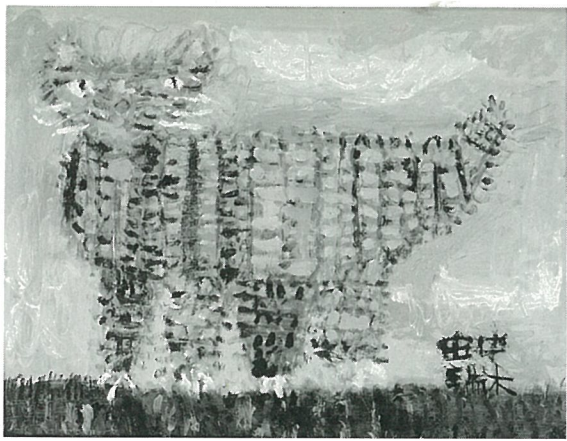


ねこの原っぱ(部分)

# みちやんの 展覧会

1999年7月10日(土)→8月1日(日) 10:00~20:00 (毎週水曜休館)  
会場:黒部市国際文化センター コラーレ(展示室) 入場無料 お問い合わせ:コラーレ Tel.0765-57-1201  
主催:財団法人黒部市国際文化センター 共催:社会福祉法人黒部市社会福祉協議会 後援:黒部市/黒部市教育委員会





よそのねこ (F8号) W455×H388mm

# みーちゃん の 展覧会



やぎたちの午後 (F50号) W1167×H910mm



ドライブ (F50号) W1167×H910mm



7羽のうさぎ (F30号) W910×H727mm

「みーちゃん」こと田中瑞木さんは、生まれつき脳器質に障害を負い、幼児期には強い行動障害を示していました。会話はできず、何度呼びかけても振り向かず、いつきも休むことなく走り回るような子供でした。

小学生の頃に絵に興味を持ち、次第に熱中するようになりました。鉛筆とクレヨンを手にも熱心に画用紙に向かって瑞木さんは、母親に勧められて、12歳の時に絵画教室に通い始めました。そして初めて描きあげられた油絵「よそのねこ」は、ピンク色の夕焼けに1匹のトラ猫がしっかりと草地に立っているという作品でした。瑞木さんの心象風景が完全に表現されているこの絵は、同時に彼女の大きな可能性を示していました。

養護学校高等部在学中、昭和62年全国学校秀作美術展で東京美術文化協会賞を受賞し、その後多くの賞を受賞しました。17歳で初めての個展を開催。今回のコラーレでの個展が7回目となります。瑞木さんは、26歳になる現在も「調布市第二希望の家」(福祉作業所)で働きながら、絵画教室の大沢社一先生のもとへ通い、鼻歌を歌いながら油絵を描いています。

猫や犬、大好きな家族などがのびのびとしたタッチでキャンバスいっぱいに描かれた作品は、みずみずしい生命力にあふれ、見る人の心に強く訴えかけてきます。

近年、瑞木さんのような障害を持つ人々が描く絵は、「アール・ブリュット＝生(なま)の芸術」と呼ばれ、これまでの社会のしきたりや絵画の様式にとらわれず、自由な感性で人間の心の奥を表現していると高く評価されています。

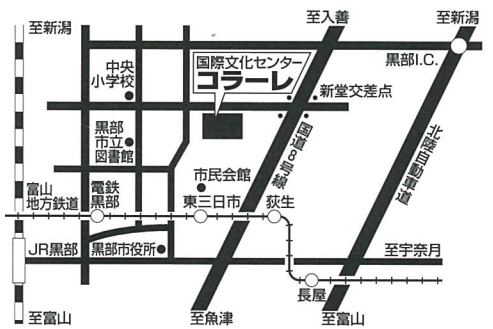
「饒舌なる絵」によって語りかけてくる、瑞木さんからのメッセージを受け止めて下さい。

そして今回の展覧会を通して、障害をもつ人々とその家族の努力や喜びを理解する一助となれば、これに勝る幸いはありません。



## ●田中瑞木さんの受賞歴

- 1987年(昭和62年)  
全国学校秀作美術展で東京美術文化協会賞
- 1989年(平成元年)  
全国学校秀作美術展で東京都教育委員会賞
- 1990年(平成2年)  
全国学校秀作美術展で日本美術教育連合賞
- 1996年(平成8年)  
障害者総合美術展で最優秀賞



●お問い合わせ：黒部市国際文化センター コラーレ Tel.0765-57-1201

## 絵はコミュニケーション

文・田中愛子 絵・田中瑞木

「すいせんのことば」

障害を持ちつつ絵に向かう瑞木ちゃんと、ともに歩いてきた家族の記録。

「山あり谷あり」でもくじけず、希望を持ち、素直に生きる勇気が、伝わってくる。

読後、不思議なことに自分も一緒に瑞木ちゃんと生きて来たような気がする。

陶芸家 三輪龍作

燦葉出版社 写真70葉収録

四六版変P130 ¥1900+税

